

## 年度評価シート

課名 文化振興課

施設の名称 静岡市美術館	指定管理者名 (公財)静岡市文化振興財団
1 履行状況	
業務仕様書及び事業計画書に従っておおむね適切に履行されている。	
(1) 維持管理業務	
設備管理及び機械警備・人的警備、昇降機の日常保守点検等、事業計画に沿って適切に行われている。また、空調設備や展示室内温湿度管理設備等の修繕業務を合計10件行い、施設の適切な維持管理に努めた。	
(2) 施設利用者数	
平成30年度の来館者総数は228,701人、そのうち展覧会観覧者数は5つの展覧会合計83,257人で、事業計画で設定した目標値の113,000人に対して29,743人下回った。前年度の展覧会観覧者数の111,134人と比較すると、27,877人減となった。また、平成30年度事務事業総点検表の目標値1,280,000人に対して4年間の累計は1,255,217人であり、達成率は98.1%であった。	
展覧会関連事業の参加者数は6,028人で前年度17,272人に比べ65.1%減、交流事業は35,539人で前年度34,922人に比べ1.8%増、連携事業は20,452人で前年度15,736人に比べ30.0%増となった。	
(3) 事業実施状況	
展覧会事業、展覧会関連事業、交流事業及び連携事業について、おおむね事業計画のとおり実施されている。	
① 展覧会事業	
「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生」では、20世紀初頭に「フォービズム」で一世を風靡したフランスの画家・ヴラマンクにスポットを当て、文筆家や音楽家など多彩な顔を持つ画家の生涯をその言葉とともに紹介した。通常の展覧会と比較し男性の来場者が多かったことに加え、絵画に画家の言葉を添えた展示方法は来館者から好評を得ており、市民に対し通常の展覧会とは異なったアプローチを展開することができた。	
「起点としての80年代」は、金沢21世紀美術館及び高松市美術館との共同自主企画で、1980年代の日本の美術を紹介する展覧会として実施し、他2館と併せて全国紙の文化欄や専門誌に展覧会の詳細が掲載され全国から高い関心を得ることができた。また、生年月日が1980年代の来館者には入館料割引を適用するなど、集客に向けて工夫を施した点を評価したい。その他、「いつだって猫展」や「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年」も国内外の美術館や博物館等と連携し、指定管理者の持つネットワーク・ノウハウを活かした質の高い展覧会の実現に努めている。	
「ミュシャ展 ～運命の女たち～」では、ヨーロッパで起こった芸術活動アール・ヌーヴォーの旗手として知られるアルフォンス・ミュシャの作品に注目し、日本初公開の作品を含む約160点を公開した。また、静岡市在住のミュシャ作品	

収集家である尾形寿行氏の「OGATAコレクション」約100点を静岡会場のみ  
に展示し、作品内容や展示構成の工夫を凝らし静岡ならではの展覧会を開催で  
きたことは大いに評価できる。

## ② 展覧会関連事業

展覧会ごとに、展覧会担当の学芸員が子どもたちや高齢者に向けて展示内容  
の解説を行い、学校や児童クラブ向けの「ミュージアム教室」、生涯学習団体向  
けの「展示解説」を積極的に実施した。本物の美術作品に触れ、美術に親しむ  
機会を提供するため学芸員が参加者に直接解説を行う取組みは全国的にも珍  
しく、市民の豊かな感性の育成に貢献できている。

## ③ 交流事業

エントランスホールなどを使い様々なアートシーンを紹介する「Shizubi  
Project」においては、「起点としての80年代」展と関連し、1980年代の静岡県  
を舞台に創作活動を行った作家の作品をカタログや記録写真で辿る企画を実  
施した。市民が気軽に利用できる空間を活用した事業は、展覧会の内容をより  
深く知ることができるとともに市民の美術に対する興味・関心を喚起する機会  
として有意義なものとなっている。また、各展覧会に関連した作品鑑賞と創作  
が一体となったオリジナルプログラムや、様々なテーマに沿ったワークショッ  
プを実施し、市民が気軽に美術活動に参加し市民の創作活動を支援する事業  
を実施した。中でも、未就学児を対象としたワークショップは毎回定員を大幅に  
超える申し込みがあり、市民が自ら体験し楽しみながら美術に親しむことが  
できる環境が整っている。

## ④ 連携事業

平成30年度は主に生涯学習センターを会場に、各展覧会の関連した講演会や  
ワークショップ等を開催し、美術館以外でも展覧会に関連した事業に参加で  
きる機会を提供した。また、「セーヴル展」の関連事業として静岡音楽館と連携  
し、静岡の若手音楽家を起用したコンサートを実施した。当該団体が指定管理  
者になっていることを活かして、音楽、科学、美術という異分野を融合させた  
事業を積極的に展開している。各施設の来館者が相互に足を運ぶきっかけとな  
っており、市民に多様な文化に触れる機会を提供するとともに、中心市街地の  
回遊性を高め、まちなかの賑わい創出にも貢献している。

展覧会の観覧者数及びその他事業の参加者数は下記のとおり

### ① 展覧会事業

展覧会名	観覧者数	目標	達成率
いつだって猫展	18,404人	30,000人	61.3%
ミュシャ展 ～運命の女たち～	28,579人	26,000人	109.9%
ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生	10,871人	20,000人	54.4%
フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年	15,262人	25,000人	61.0%
起点としての80年代	10,141人	12,000人	84.5%

### ②展覧会関連事業

催事名	実施回数	参加者数
ミュージアム教室	85回	2,267人
展示解説・美術講座	17回	554人

講演会	6回	588人
その他関連事業（ミュージアムコンサート等）	-	2,588人

### ③交流事業

催事名	実施回数	参加者数
Shizubi Project7 アーカイヴ／1980年代 - 静岡	-	34,798人
Shizubiシネマアワー	4回	126人
プレゼントワークショップ	6回	113人
しずびチビッコプログラム	5回	119人
しずびオープンアトリエ	2回	383人

### ④連携事業

催事名	実施回数	参加者数
生涯学習センターとの連携事業	13回	597人
めぐりアート静岡 4つの会場をめぐり、アートの散策。 (10/23～11/25)	-	19,438人 (静岡市美術館への 来館者数)
3館連携事業	1回	87人
その他連携事業	-	504人

## 2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

来館者への一次対応を行うスタッフへの研修を行うとともに、来館者からの意見・質問・苦情等の情報共有の徹底に努め、職員全体で対応力向上に努めている。

また、来館者からの意見・要望に対しては概ね適切な対応がとられており、即時の対応が困難である要望に対しても前向きに検討するなど、良好な対応がなされている。

[具体的な意見・要望と対応状況]

意見等：ガラスケースが汚れていて作品が見えにくかった。

対応：委託業者に対しより丁寧に清掃を行うよう依頼し、来館者対応を行う派遣スタッフにも日常的な清掃や展覧会ごとの定期清掃は行っているが、来館者が館内で快適に過ごせるよう、日頃より適切な環境維持に努める。

## 3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

### (1) 利用者満足度調査

展覧会観覧者および交流事業参加者に対して、事業ごとにアンケートを実施し、満足度調査を行っている。

各展覧会の内容については「満足」「やや満足」の回答が7割以上を占め、おおむね高い評価を得ている。各展覧会での「満足」「やや満足」の回答結果は以下のとおり

- ① 「いつだって猫展」 87.5%（回答数：494）
- ② 「ミュシャ展 ～運命の女たち～」 87.1%（回答数：806）
- ③ 「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生」 86.3%（回答数：782）
- ④ 「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年」 84.2%（回答数：662）
- ⑤ 「起点としての80年代」 71.0%（回答数：406）

### (2) 市民アンケート

平成30年度に（公財）静岡市文化振興財団が指定管理者となっている文化施設等

で実施した市民アンケートによると、静岡市美術館の認知度は62.7%、利用度は42.3%であった。前年度の認知度69.1%、利用度48.7%と比較するとそれぞれ減少している。さらなる認知度・利用度向上のため、JR静岡駅前という立地を活かし引き続き積極的な広報活動や魅力的な事業の実施を期待する。

### (3) その他の調査

施設内に投書形式の「利用者の声」を設置し、施設利用者に随時、意見・要望や施設満足度について調査している。いずれの項目も「満足」「やや満足」の合計割合は8割以上となっている。回答結果は下記のとおり

- ① 職員の応対 83.3% (前年度70.9%)
- ② 清掃、整理整頓 91.7% (前年度74.1%)
- ③ 案内表示、掲示板 91.7% (前年度80.9%)
- ④ 開館日・開館時間 83.3% (前年度70.9%)
- ⑤ 空調・音響・照明等 91.7% (前年度74.1%)

その他、市民や学識経験者で構成される美術館運営協議会を年2回開催し、外部からの意見・要望を積極的に取り入れ、より良好な管理運営を目指している。

## 4 指定管理者の経理状況の評価

開催した展覧会において、新聞社・テレビ局等マスコミ各社から出資共催を得たほか、事業内容をより充実させるため、国や独立行政法人等の補助制度を積極的に活用しており、限られた予算の中で効果的な事業実施に努めている。

## 5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	有
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

施設管理業務に関しては、事業計画に従い環境維持のための各種点検業務や館内清掃業務等が滞りなく実施されている。次年度以降も、定期点検結果などを参考に適宜設備修繕等を行うことを求める。また、指定管理者の決算収支の状況もおおむね良好である。

事業実施状況については、展覧会事業を柱として展覧会に関連した事業やエントランスホールなどの交流スペースを活かした取り組みを積極的に行っている。また、国内外の美術館・博物館等と協力し共同で展覧会を実施したり、教育機関や生涯学習施設の利用者に対し展覧会に関する解説を年間100回以上行うなど、都市型美術館ならではのメリットを十分に活かした運営がなされている。特に静岡音楽館、静岡科学館との駅前3館連携事業の実施により、美術館を訪れた方が他の2館を訪れたり、これまで美術館に足を運んだことのない方が初めて美術館へ来館するきっかけとなり、中心市街地の回遊性を高めると同時に賑わいの創出にも貢献している。

さらに、学芸員の美術に関する専門知識等を活かして市の文化事業にも協力し、市が市民からの美術品寄贈受入れを検討する際には、学芸員の持つネットワークを活かし審査委員の選定等について市へ助言を行うなど市の文化施策を踏まえた取り組みを行っており、今後も市や外部機関との連携を強化し市民が美術への興味関心を高めることができる活動に期待する。

第2期指定管理期間の4年目にあたる今年度も、事業計画に沿った事業が適切に実施されていることについて大いに評価できる。引き続き、事業内容の充実を図りより

多くの人々に静岡市美術館の魅力を発信できるよう様々な工夫を行ってほしい。

※事務事故が発生したとき及びモニタリングにおいて改善の指導があったときは、必ず改善状況を記載すること。